



学校だより

令和3年9月30日

No. 7 10月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

オリンピックパラリンピックが終わって

副校長 京樂眞次

いよいよ運動会の季節です。篠原西小学校では今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、時間差開催や競技の縮小、さらには保護者参観人数の上限を設ける等の対策を施させていただくことで53回目の運動会「ブックスポーツ集会(仮題)」を実施することとなりました。子どもたちには練習時間や場所等が制約される中、当日は自分の力を発揮して楽しんでほしいと願うばかりです。

自分が可愛い小学生だった頃の運動会を思い出すと、徒競走で1回も1位になったことはありませんでしたし、自分がいる組が勝った記憶もありません。その結果6年生にもなると「やったあ、今年は京樂と組が違うから自分のいる組が優勝だあ!」と騒がれる始末でした。当然、小学校時代の運動会には苦い思い出しかありません。

さて、自分のことばかりではなく、スポーツといえば今年の夏にオリンピックパラリンピックが開催されました。テレビでの観戦になりましたが(元々チケットは持っていなかったので変わりはありませんでした)、時間が経つのを忘れるほど熱中してしまいました。この「近代オリンピック」を提唱したピエール・ド・クーベルタンという人物は「オリンピックは勝つことよりも参加することに意義がある」という言葉を残したと言われています(諸説ありますが)。今回はこの言葉がもつ二つの意義について考えてみたいと思います。

一つ目は、勝つためには「努力」が必要です。オリンピックに出場できるのは、ほんの一握りの限られた選手だけです。小さいころからオリンピックへの出場を夢見て、努力に努力を積み重ねて練習しても必ずしもオリンピックに出場できるとは限りません。しかしどの選手も、どんなに辛く、苦しくても決して諦めずにひたむきに努力をし続けるのには、「オリンピックに参加する!」という高い目標があるからだそうです。オリンピック選手はひたすらに、純粋に、正しく努力することの尊さを、見ている私たちに教えてくれます。

二つ目は、選手への応援についてです。一つ目で触れたように多くの努力を重ねてオリンピックに出場できただけでも大変な選手たちがさらに金メダルを目指す、というのは過酷、壮絶という言葉では言い尽くせない程のものだと思います。しかし、ときに応援する私たちの方が勝ち負けにこだわり、負けてしまった選手に対して尊敬を欠いてしまうことはないでしょうか。また、国同士のメダル数を競うことに夢中になり、本当に頑張っている選手たちのことを忘れてしまっていることはないでしょうか。当然ですが、勝つために精一杯戦っているのは参加している選手たちです。私たちは勝負に一喜一憂するのは当然ですが、選手のために純粋に応援する。そしてゲームが終わったら勝敗に関係なく選手たちに惜しみない拍手を送ることが大切なのではないでしょうか。

以上「努力の尊さ」と「純粋な応援」の二つの意義から「オリンピック精神」について考えてみましたが、運動会が終わると必ず下を向いて帰路についていた小学生だった頃の自分に帰ることができたら、是非伝えたい意義です。そうすれば、あの頃見た曇り空は青く澄み渡って見えていたのでは、と思うばかりです。

さて、10月11日に前期が終わります。今年度もあと半分、折り返し点を迎えました。これまでの学校教育活動へのご支援ご協力ありがとうございます。子どもたちがすくすくと伸びていく篠原西小学校の素晴らしさを実感しております。今後とも今までと同じくご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

